

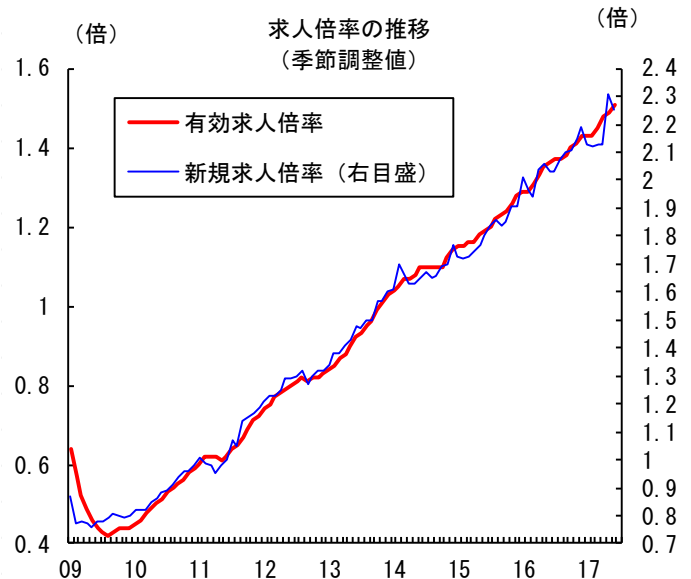
テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2017年6月） 発表日：2017年7月28日（金）
 ～失業率は再び2%台に。雇用情勢は極めて良好～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528



(出所)総務省統計局「労働力調査」

(注)2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



(出所)厚生労働省「一般職業紹介状況」

○失業率は再び2%台に

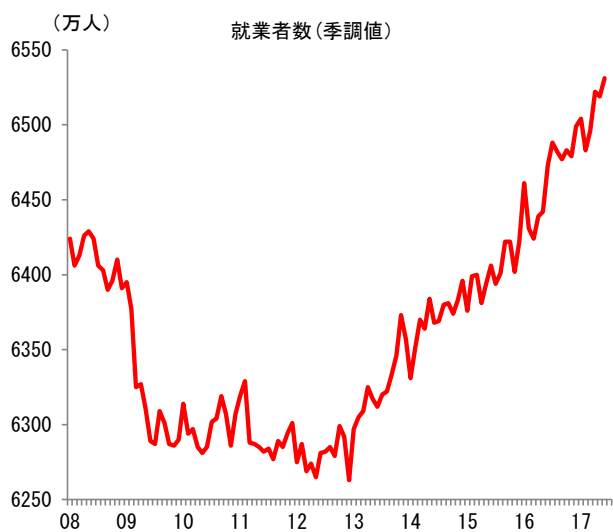
総務省から発表された2017年6月の完全失業率は2.8%と、前月から0.3ポイント低下した。市場予想の3.0%を大きく下回るポジティブサプライズである。5月の失業率は3.1%と、4月の2.8%から0.3ポイントの上昇となっていたが、6月は大きく低下し、再び2%台に戻っている。もともと5月の失業率上昇は、良好な雇用環境を背景に労働市場への参入が大幅に増加した（労働参加率が上昇した）ことによる面が大きく、雇用情勢が悪化したというわけではなかった。6月は、その上昇した労働参加率の水準をたもったまま、雇用者数が増加することで失業率が低下しており、内容も非常に良好である。実際、季節調整済みの就業者数は前月差+12万人（5月▲3万人）、雇用者数が前月差+32万人（5月+3万人）と大きく増加している。引き続き、雇用は着実な増加傾向にあると評価してかまわない。

○企業の求人意欲は非常に旺盛

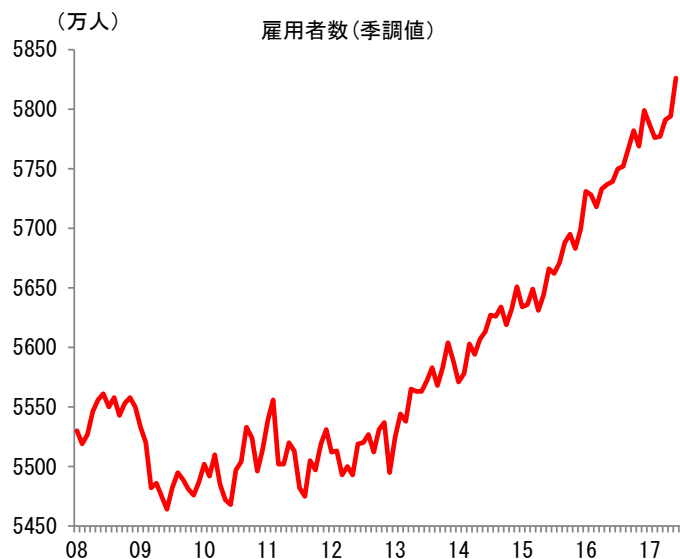
厚生労働省から公表された17年6月の有効求人倍率は1.51倍と、前月から0.02ポイント改善した。バブル期のピークである90年7月の1.46倍を3ヶ月連続で上回り、1974年2月（1.53倍）以来の高水準となっている。労働需給が非常に引き締まっていることを示す結果といえる。また、新規求人倍率は2.25倍と、前月（2.31倍）から0.06ポイント低下した。新規求人倍率は、5月に不自然な急上昇（4月2.13倍→5月2.31倍）となった後、6月は比較的大きめの低下と、ここ2ヶ月振れが大きい。これは新規求職申込件数が5月に前月比▲7.5%、6月に+5.2%と大きく振れたことによって攪乱されている面が大きく、企業の求人意欲に変化が出ているわけではない。

実際、有効求人数は4月が前月比+0.7%、5月が▲0.1%、6月が+1.5%。新規求人数は4月が前月比+0.2%、5月が+0.2%、6月が+2.4%と好調さを維持している。引き続き、求人は明確な増加傾向にあり、

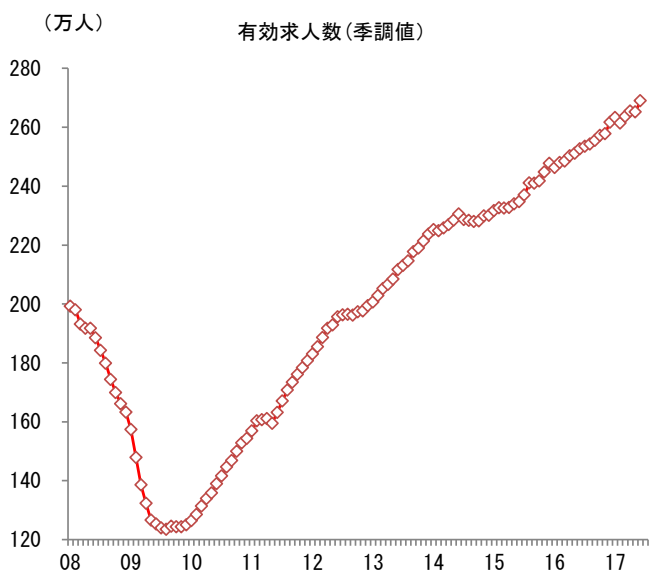
企業の求人意欲が旺盛であることが確認できる。雇用者数の動きに先行する求人数が改善傾向を続けていることからみて、先行きも雇用情勢は堅調さを持続するとみられる。失業率も2%台での推移が続く可能性が高いだろう。



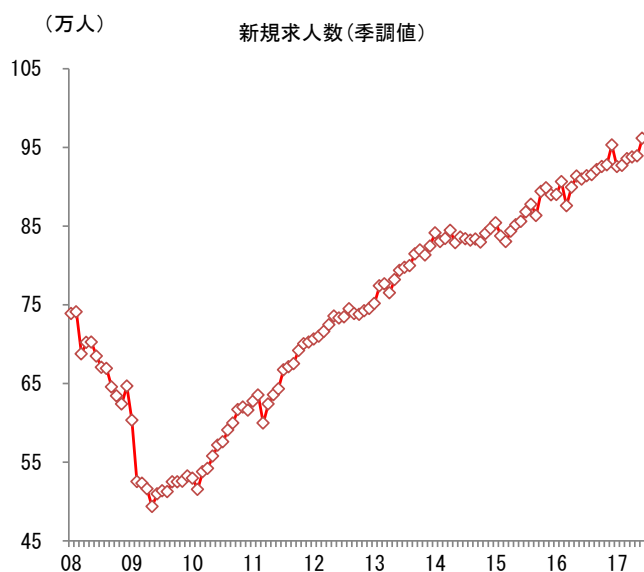
(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」